

令和5年度第2回岡崎市総合政策指針審議会 会議録

日 時

令和6年3月4日（月） 15:00～16:45

場 所

岡崎市役所東庁舎2階大会議室

出席委員

名古屋都市センター長

奥野 信宏 会長

名古屋大学 名誉教授

福和 伸夫 副会長

あいち三河農業協同組合 代表理事組合長

大竹 博久 委員

東京大学 教授

小川 光 委員

岡崎市医師会 会長

小原 淳 委員

連合愛知三河中地域協議会 副代表

山口 賢二 委員

岡崎市教育委員

千野 智子 委員

岡崎市総代会連絡協議会 会長

長坂 秀志 委員

岡崎信用金庫 地域振興部 部長

八木 則行 委員

欠席委員

岡崎商工会議所 会頭

大林 市郎 委員

早稲田大学 教授

小野田 弘士 委員

東京大学 准教授

村山 顕人 委員

事務局

総合政策部 部長

岡田 晃典

総合政策部企画課 課長

富田 浩也

総合政策部企画課 副課長

板坂 英幸

総合政策部企画課 係長

中村 衣里

総合政策部企画課 主査

武藤 康弘

傍聴者

1名

会議要旨

議題1「岡崎市将来人口推計及び想定社会状況の変化について」

【各委員の主な意見と事務局回答】

- 国連の人口推計では日本は2050年に向けて1.4~1.5で推移する。アジア全般の合計特殊出生率は低下しており、従来から東アジアで低下していたが、東南アジアにも人口減少が拡大している。アジアの中では、日本の状況は悪くはないものの、人口減少が続いていく。長期的な推計は不確かなので、10年ごとの見直しをしっかりとやって行くことが重要。
- 愛知県はスタートアップへの機運が高まっている。インバウンドは他地域と比べて雇用が増えるほど多くはない。中山間地についてはコンパクト+ネットワークとして人のつながりで地域を作るとしていたが、想定より早く高齢化が進んでおり機能していない。カーシェアについても運転する人がいない状況。今後期待できる面と厳しい面がある。
- 各分野において、岡崎だけでなく西三河全域で活力を上げることが重要で、矢作川流域全体で、他地域にないアクションができるといい。西三河の資産を生かしあいながらインバウンド対策などにも取り組んでもらいたい。
- 西三河地域は都市シンクタンク機能が弱いので、東岡崎駅周辺に西三河のセンター機能を持つ拠点があると連携もしやすくなると思う。
- 防災・減災について、東三河と西三河で同時に2つの流域が被災するケースは少ないので、流域間での連携ができると新しい動きが出てくると思う。三遠南信州の動きと、西三河の産業力が足し算されると東京と名古屋で新しい気運が作られ、リニアと東海道の結節も生じると考える。
- 災害について、被災時に行政に頼らず、自力で対応できるよう、事前に耐震化や再生可能エネルギーの活用を見据えた整備を進めることも防災の手段の一つだと思う。
- 日本は災害が多いため、防災・減災関係でうまくスタートアップすれば稼ぐことができるので、企業が集まってチャレンジできる場所を東岡崎駅前に作ってほしい。
- 愛知県の魅力は東京や大阪に比べて、自動車産業を中心とした経済の安定や、東京や大阪などの都市に通いやすいことなので、このような愛知県全体の魅力を他市と連携して発信してもらいたい。
- 被災時に被災者が他市にスムーズに避難できるよう、近隣都市と防災に関する連携を進めてもらいたい。
- 守りきれない災害や環境の変化に対して人間社会が「適応」していくことも重要なので、この「適応」の観点を総合計画に加えてもらいたい。特に気候変動に対しては、水害や暑熱、農林業への気候変動の影響と「うまく付き合っていく」「気候変動に適応していく」姿勢も必要である。
- 資料2（表3-2、3-3）の20代の移動について、男性は200人超の転出に対して、200人超の転入がある。一方で、女性は400人弱の転出に対して、100人弱の転入になっているので、女性がなぜ男性の2倍転出しているのか、理由を調査した方がよいと思う。岡崎からの転出は、能力の高い女性が力を発揮できる場を求めて転出している可能性もあると思うので、転

出者へのヒアリングなどにより、岡崎の課題を解決するための施策を計画に盛り込んでもらいたい。

- 東京や長久手など人口が増えている地域ではまちの魅力がある。仕事があることや、子育てしやすいことなど、さまざまな魅力があるが、岡崎も魅力向上を推進して流出抑制をする必要がある。
- 広域で各施策に取り組んでいくことが重要。

議題2 「第2期岡崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について」

【各委員の主な意見と事務局回答】

- 新たな交通システム導入事業における高齢者パスの補助の取組はよいと思うが、中高校生などの車を使えない人も恩恵を享受できるようなサポートをしてもらいたい。
- 地域内交通の仕組みが作られていることはよいと思うが、高齢者が免許証を返納して公共交通を利用していく決断をするには数年単位の時間がかかる。短期間で事業の評価をするのではなく時間をかけた見極めが必要。粘り強い啓発活動も行ってもらいたい。

(事務局回答)

本市の公共交通は基幹となる鉄道とバス網をメインにして、それを補完する地域内交通の仕組みづくりを行っている。

また、どの地域の方も医療や買い物に困らないよう、タクシーを守ることも重要だと思っており、地元にも乗り合いについてご協力を得ながら、地域内交通の仕組みづくりを行っていきたい。

- 西三河の力が結集できていないのは、豊田市と岡崎市の移動の不便さも要因の一つにあると思うので、2市をつなぐ愛知環状鉄道の複線化を行ってもらいたい。

(事務局回答)

愛知環状鉄道の複線化を進めるため、現在、大門駅の用地買収をしている。一方で、豊田市側で狭あいの箇所もあるので、豊田市と協力して進めていきたい。

議題3 「第2期岡崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について」

【各委員の主な意見と事務局回答】

- 平地では農業による収益が少なく、高齢化による就農者が減少しているといった課題がある。農の魅力発信事業によって、アクセスが良い北部地域で農のPRをしてもらうことで、農業への参加者を増やしてもらいたい。
- おかざき こども会議については、参加する子どもに他市との交流機会や姉妹都市への派遣機会の提供などのインセンティブを与えて、子どもが主体的に取り組める仕組みを作ってもらい

たい。

- おかざき こども会議については、学校によって情報発信の温度差があると思うので、教員への理解醸成に丁寧に取り組んでもらいたい。
- おかざき こども会議について、会議の進め方によっては大人側の意向が強くなってしまう懸念があるので、ファシリテートが適切に行われるよう丁寧に取り組んでもらいたい。

(事務局回答)

本市では、中学生が学校単位で議論したものを政策提言する生徒市議会を行っているので、こども会議とのすみ分けは今後の課題だと思っている。また、年齢も幅広く、意見も年齢層によって異なると思うので、形式的にならないように進めていきたい。

また、他市では地元で働いている方や NPO で活躍している方をファシリテーターとして迎えたり、民間で自走したりする事例もあるので、先行事例を参考にしながら取り組んでいきたい。

- 健康や医療分野は全ての基礎になるため、ウォーキングアプリの利用者数4千件の KPI では低い。もっと多くの人健康医療に関するサービスを利用できるようになるとよい。
- 岡崎は閉鎖的な中でも多様性がある。岡崎の気質をよく考えて施策を進めていく必要がある。

以上